

大西祝 哲学者。短い生涯のなか、近代的な私の自覚に基づき、幅広い分野の思想において先駆的な業績を遺した。

おおにしはじめ

禁門の変・1864 = 岡山藩士木全正脩の子として生まれた。

明治維新・1868 = 4歳 :

明治6年政変 1873 = 9歳 :

幼時より青年期までキリスト教の影響をうけ、生涯にわたって学問と思想を規定した。

西南戦争・1877 = 13歳 : 叔父にあたる大西氏を継ぎ、同年、同志社英学校に入り、

同級生中の弱齢をもって俊秀の評判が高かく、

明治14年政変 1881 = 17歳 : 普通科を、

新体詩抄・1882 = 18歳 :

秩父事件・1884 = 20歳 : 神学科をおえた。

内閣発足・1885 = 21歳 : 東京大学予備門の第3年級に編入され、半年後に文学部(翌年より文科大学)に移り哲学科に学んだ。

西欧詩学の素養を背景としてしばしば詩歌論をものし、みずからも和歌・新体詩を作った。

帝国憲法発布 1889 = 25歳 : 大学院生となり、倫理学の研究に従事、

帝国議会始・1890 = 26歳 : *修了論文「良心起原論」で、その中核的思想を提示、

足尾鉞毒始・1891 = 27歳 : 東京専門学校に出講し、哲学・心理学・論理学・倫理学・美学などを講じ、その人格と学識によって学生に深い感化を与える。その間、{六合雑誌}の編集を担当し、時評欄を設けて時事評論を展開。

郡司千島探検 1893 = 29歳 : *古今東西にわたっての論理学を集大成し、長く権威的な書物となる「論理学」を刊行。国家主義的風潮やそのイデオログである井上哲次郎らに対し、「批評心」「教育勸諭と倫理説」「当今の衝突論」などを書いて、倫理の自立性を主張し市民的立場を擁護する。

日清戦争始・1894 = 30歳 :

日清戦争終・1895 = 31歳 : *日本人自身の手になる最初の本格的な哲学史「西洋哲学史」を刊行。

白馬会・1896 = 32歳 : 「倫理学」。姉崎正治らとともに丁西倫理会を組織する一方、「社会主義の必要」を説く

八幡製鉄始・1897 = 33歳 : 高等師範学校倫理科講師となる。

子規句歌革新 1898 = 34歳 : 東京専門学校出講を辞め、哲学研究のためドイツへ留学、主としてイエーナ大学・ライプツヒヒ大学に滞在し、前者ではオイケンと交わり、後者ではブントの講義をきいた。またローマ・フィレンツェなどをめぐり、広くヨーロッパ文化の吸収につとめた。新設の京都帝国大学文科大学の長に内定しており、そのための学科や組織の調査をも滞欧中の仕事としていたが、

Bushidou・1899 = 35歳 : *健康を害して帰国、羅馬字日本語書方取調委員に任ぜられながら、静養につとめるもかなわず、

ビア/国産化・1900 = 36歳 : 没した。